チルティングシャワーキャリー

マルチキャリー

MULTI CARRY

操作取扱説明書

株式会社 ミクニ

このたびは、「マルチキャリー」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

「マルチキャリー」は施設内、またはご家庭内で姿勢の不安定な方の入浴を助ける、チルティング機能付きのシャワーキャリーです。

また、入浴介護リフトを利用した入浴の際には、吊り具としてもご使用していただけます。

本説明書をよくお読みになり、正しく安全にご使用下さるよう、お願い申し上げます。

なお、お読みになったあとは、大切に保管して下さい。

目　　次

１．安全上の注意 3

２．各部の名称と機能 5

３．操作・取り扱い

（1）　チルティングの操作 8

（2）　チェア部の分離・合体の操作 8

（3）　フットサポートの操作 9

（4）　アームサポートの操作 10

（5）　安全ベルトの着脱 10

（6）　フットブレーキの操作 11

４．入浴介護リフトを利用した入浴手順

（1）　はじめに 12

（2）　吊りベルトの装着 12

（3）　チェア部の分離 14

（4）　入浴介護リフトの操作 14

（5）　チェア部の合体 14

（6）　移動 16

５．各種部品の交換方法

（1）　アームサポートの取付け、取外し 17

（2）　メッシュシートの取付け、取外し 17

（3）　座面クッションの取付け、取外し 18

（4）　フットサポート、プレートの取付け、取外し 20

６．日常のお手入れ、点検について

（1）　通常のお手入れ 22

（2）　メッシュシートのお手入れ 22

（3）　日常の点検について 22

７．仕様 23

１．　安全上の注意

ご使用の前に、この安全上の注意をよくお読みの上、正しくお使い下さい。

ここに示した注意事項は、商品を正しくお使いいただき、お客様本人や他の方々への危害危険、損害を未然に防止するためのものです。
また、注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」・「注意」の２つに区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので必ず守って下さい。

⚠警告 ： 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容
⚠注意 ： 人が損害を負う可能性および物的損傷のみの発生が予想される内容

※　本文中の　重　要　　注　意　の表示がある部分についても、破損やけがを未然に防ぐための記述ですので必ずお読み下さい。

⚠警告

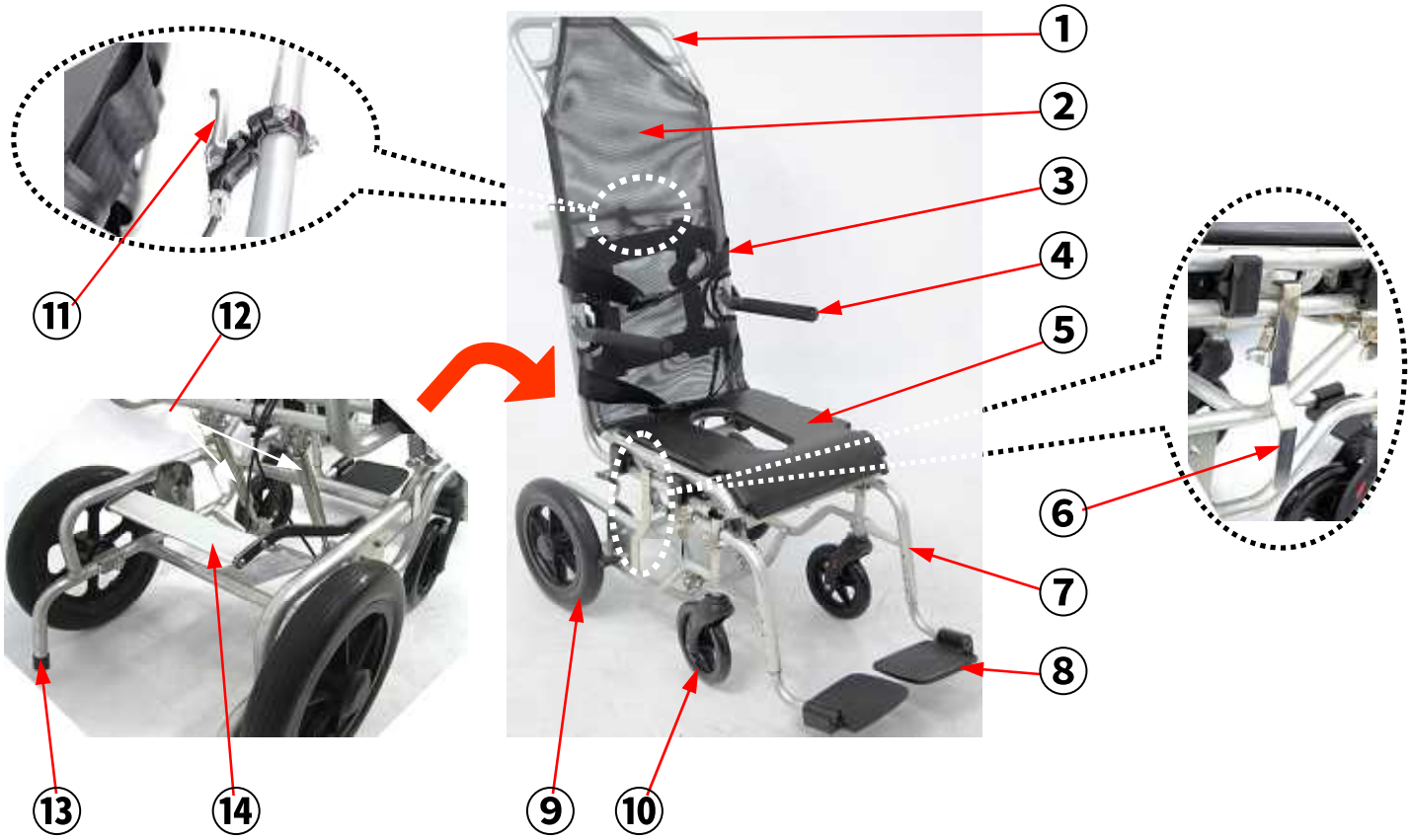
- 屋内向けに作られた商品ですので、屋外での使用はお止め下さい。
- 階段やエスカレーターでは絶対に使用しないで下さい。
- 分解、改造は耐久性に影響をおよぼすため絶対に行わないで下さい。
- フットサポート・アームサポートは、シートに座っている時のみ使用してください。過度の荷重をかけたり、乗り降りの際に使用すると、転倒や破損の恐れがあります。
- シートの上には絶対に立たないで下さい。　落下、転倒により重大な事故につながる恐れがあります。
- スロープを降りる場合には、必ず後向きに走行して下さい。　前向きに走行しますと搭乗者がキャリーから落下したり、スピードが出過ぎることが考えられ重大な事故につながる恐れがあります。
- 暖房器の周辺など高温の場所での使用・保管はお止め下さい。　変形や破損、火災の原因となります。
- 介助・搭乗者の身体を車輪や回転部、作動部などに挟まれないよう、十分注意しながらご使用下さい。

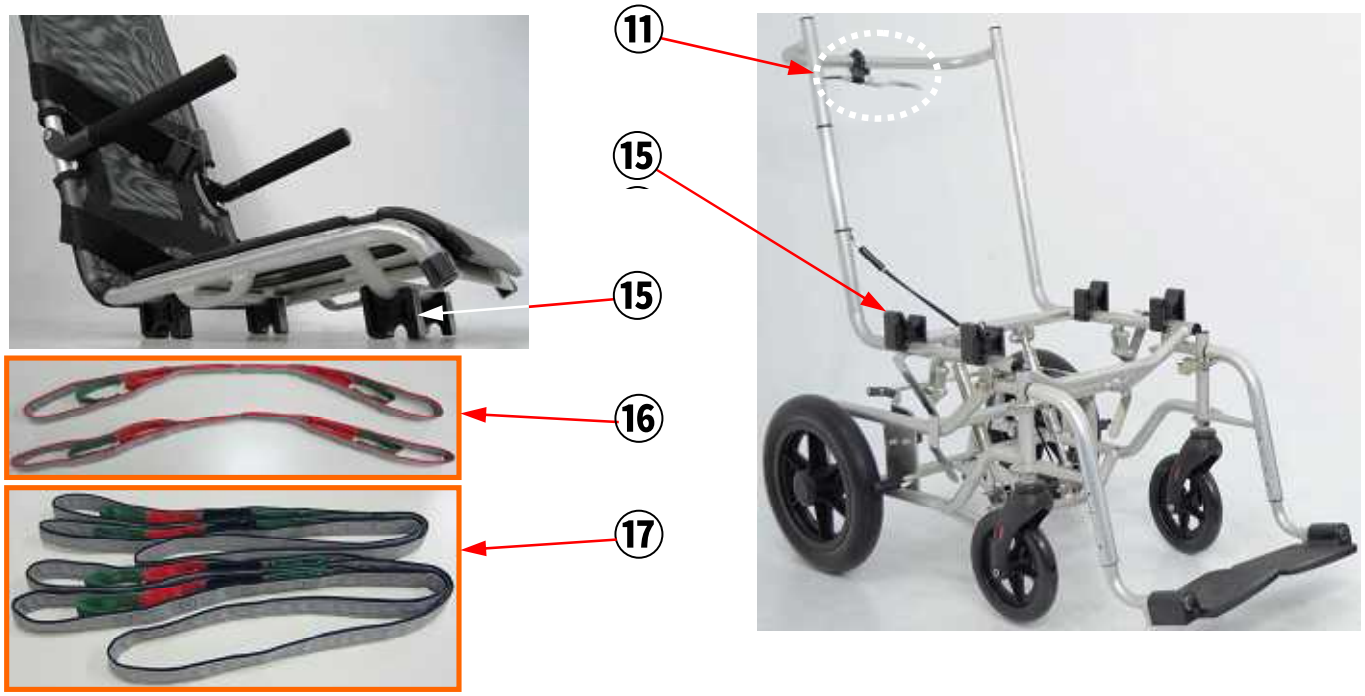
- **搭乗者が乗り降りする際には必ず、ブレーキを使用して下さい。**
  キャリーが動き、落下や転倒事故を招く恐れがあります。
- **台車とチェア部のロックはリフトで吊り上げる時以外は常にロックの状態にして下さい。**
  落下、転倒により重大な事故につながる恐れがあります。
- **リフトで吊り上げた際、チェア角度は、座面と床とで20度以下で使用して下さい。**
  台車との合体時にバランスが崩れ、転倒し重大な事故につながる恐れがあります。
- **移動時にスロープを通る場合には、チルティング角度を一番起きた状態に調整して使用してください。バランスが崩れ後方に転倒する恐れがあります。**
- **バックサポートに物を掛けないで下さい。　重心が頭側に傾き転倒する恐れがあります。**
- **メッシュシート、座面クッション、吊りベルト、安全ベルトは消耗品です。切れ、ほつれ、**
  破損などが確認された場合は、ご使用を中止し、必ず部品の交換を行ってください。
  そのままご使用された場合、落下や転倒により重大な事故につながる恐れがあります。
- **吊り上げる際は安全ベルトを装着し、吊りベルトがハンガーフックに確実に通されている事を確認をしてください。**

⚠注意

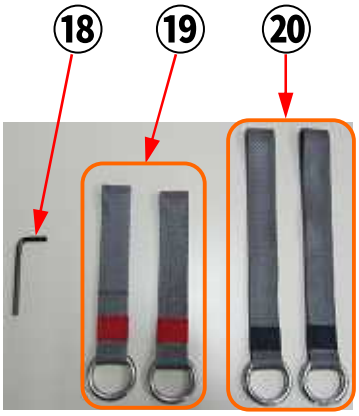
- **キャリーを投げたり、落としたりしないで下さい。**
- **本来の使用目的と違った使用はお止め下さい。**
- **スロープの途中での、保管、放置はお止め下さい。**
- **高温・多湿な場所に長時間放置しないで下さい。**
- **介助・搭乗者の衣服を車輪や回転部、作動部に挟まないよう充分注意しながらご使用下さい。**
- **キャリーをチルティングさせる際に、まわりに充分注意して行って下さい。**

2.　各部の名称と機能





① バックサポート
② メッシュシート
③ 安全ベルト
④ アームサポート
⑤ 座面クッション
⑥ ロックレバー
⑦ フットサポート
⑧ フットプレート
⑨ 後輪タイヤ
⑩ 前輪キャスター
⑪ チルティングレバー
⑫ ガススプリング
⑬ 転倒防止バー
⑭ フットブレーキ
⑮ 合体ガイド（台車）
　合体ガイド（チェア）
⑯ 頭側吊りベルト（赤色）
⑰ 脚側吊りベルト（紺色）



⑱ 六角レンチ（4mm）
⑲ 頭側 吊りベルトフック（赤色）
⑳ 脚側 吊りベルトフック（紺色）

① バックサポート
搭乗者の上体を支えます。チルティングを行う事で 床面に対し 100°～115°の範囲で
無段階に調整できます。

② メッシュシート
搭乗者の上体を支えます。特殊メッシュ生地の採用で、シートが水分を含み難くなっています。
また、メッシュシートは取外し、交換することができます。

③ 安全ベルト
搭乗者の身体を保持します。　胸部と腰部の２ヶ所に有ります。

④ アームサポート
搭乗者が肘や腕を置くサポートをします。また、手で握る事で座っている状態もサポートします。
移乗、洗体などの際、不都合な場合には、跳ね上げておく事もできます。
また、アームサポートは取外し、交換する事ができます。

⑤ 座面クッション
搭乗者の体重を支えます。弾力性の有る座面のため、搭乗者の負担を軽減します。
また、座面クッションは取外し、交換する事ができます。

⑥ ロックレバー

台車とチェアを合体した際、しっかりと固定するロック部品です。
リフト入浴の際、チェアを吊上げる場合にのみ解除して下さい。その他の場合には常に固定しておきます。

⑦ ⑧ フットサポート・フットプレート

搭乗者の脚を支えます。移乗、移動、洗体などの際、不都合な場合は跳ね上げ、スイングアウト取り外しを行う事ができます。また、フットプレートは交換する事ができます。

⑨ 後輪タイヤ

ノーパンクタイプの車輪です。φ３００mmの大車輪を採用した事で、直進安定性に優れます。

⑩ 前輪キャスター

ノーパンクタイプのキャスターです。Φ１７８mmと大型を採用した事で、室内の段差の乗越えを容易に行えます。

⑪ チルティングレバー

このレバーを握る事で、チルティング動作を行う事ができます。床面に対して １００度～１１５度の範囲で無段階に調整する事ができます。
レバーを握る事でチルティング角度のロックが解除され、放すことでチルティング角度がロックされます。（※チルティング操作は必ず搭乗者が座った状態で操作して下さい）

⑫ ガススプリング

チルティング動作のアシストをします。搭乗者が座った状態でチルティング角度のロックを解除した際、ガススプリングがアシストし、なめらかな角度の調整が行えます。
また、角度を起こす際にもアシストする事で少しの力で持ち上げる事ができます。

⑬ 転倒防止バー

後方に予期せぬ荷重が加わった際にも転倒を防ぎます。

⑭ フットブレーキ

ペダルを踏む事で後輪タイヤ両輪の回転をロックしブレーキを掛けます。
ペダルを元の位置に戻す（持ち上げる）事でブレーキの解除ができます。

⑮ 合体ガイド（台車）

チェアと合体する際の位置決めガイドになっています。合体後はチェアの重量を支えます。

合体ガイド（チェア）

台車と合体する際の位置決めガイドになっています。合体後はチェアの重量を支えます。

⑯ 頭側吊りベルト（赤色）

リフト入浴を行う際にハンガーに接続する頭側のベルトです。ハンガー接続部がはしご状に作られており、身体状況、利用状況に合わせ長さの調整が行えます。
ベルトの縁取りが赤色で作られており、脚側ベルトと間違えて使用することを防ぎます。

⑰ 脚側吊りベルト（紺色）

リフト入浴を行う際にハンガーに接続する脚側のベルトです。ハンガー接続部がはしご状に作られており、身体状況、利用状況に合わせ長さの調整が行えます。
ベルトの縁取りが紺色で作られており、頭側ベルトと間違えて使用することを防ぎます。

⑱ 六角レンチ（4mm）

アームサポート、フットサポートの取付け、取外しに使用します。

⑲ 頭側 吊りベルトフック（赤色）

頭側吊りベルトを掛けるための部品です。赤色のラベルで脚側の吊りベルトフックと間違えて使用することを防ぎます。

⑳ 脚側 吊りベルトフック（紺色）

脚側吊りベルトを掛けるための部品です。紺色のラベルで頭側の吊りベルトフックと間違えて使用することを防ぎます。

3. 操作・取り扱い

（1） チルティングの操作

チルティングは、搭乗者がキャリーに乗った状態で、台車後部にあるチルティングレバーを操作する事で床面に対し１００度～１１５度の範囲で無段階に調整を行う事ができます。

チルティングレバーを握りロックを解除し、両手で台車フレームを持ち下へ押します
適切な角度に調整し、チルティングレバーを放しロックします

注　意　チルティングの操作は搭乗者がキャリーに乗った状態で調整してください。

重　要　チルティングの操作を行う際、キャリー側面部には手を触れないよう注意して下さい。
フレームに指などを挟み怪我をする恐れがあります。

（2） チェア部の分離・合体の操作

リフト入浴を行う際は、脚･頭側吊りベルトをリフトのハンガーに掛け、吊り上げを行う直前にロックレバーを解除します。

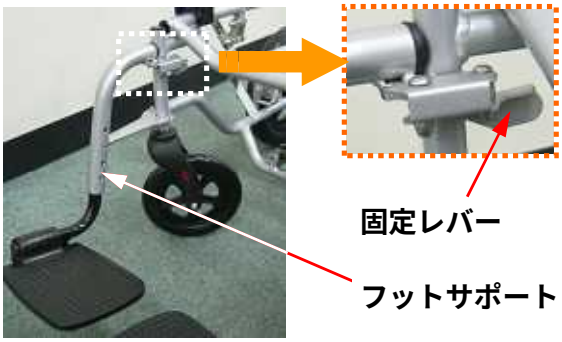
ロックレバーの下側を手前に、チェアに掛かっているフック部分を外します。
（ロックレバーの解除は、左右両側行います）

※ 合体の際は、上記手順を逆に行って下さい。
（ロックレバーの固定は、必ず左右両側行ってください）

重　要　ロックレバーはリフトで吊り上げる直前に外して下さい。それ以外は常に固定の状態にして下さい。また、ロックレバーは必ず左右両側を固定して下さい。
ロックせずご使用されるとバランスを崩し転倒の原因となります。

（3） フットサポートの操作

フットサポートは、以下の操作で取り外し、スイングアウト、プレートの跳上げを行う事ができます。
移乗時、洗体時の際に不都合となる場合には、それらの機能を利用いただきご使用下さい。



【フットプレートの跳ね上げ操作】

手の平でフットプレートの下を持ち上げます
戻すときは反対に操作し降ろします

【スイングアウトの操作】

固定レバーを押しロックを解除します　　フットサポートを固定位置と反対方向まで回転させます

戻す際は逆の操作を行い、固定レバーがしっかりとロックされ、フットサポートが回転しない事を確認します

【フットサポートの取外し】

固定レバーを押しロックを解除します　　フットサポートを上に持ち上げ取り外します

戻す際は逆の操作を行い、固定レバーがしっかりとロックされ、フットサポートが回転しない事を確認します

注　意　フットサポートのロックは新品では、少し硬く設定してあります。
フットサポートの固定解除、固定ロックを数回行う事でなじんでいきます。

重　要　フットプレートは搭乗者が座っている時に搭乗者のみ使用できます。
過度の荷重を掛けたり、乗り降りの際に使用すると転倒や破損の恐れがあります。

（4） アームサポートの操作

アームサポートは跳ね上げる事ができます。　移乗や洗体の際に不都合な場合は跳上げて使用して下さい。

アームサポート先端を持ち矢印の方向に引き上げます。

戻す際は反対の操作により戻します

重　要

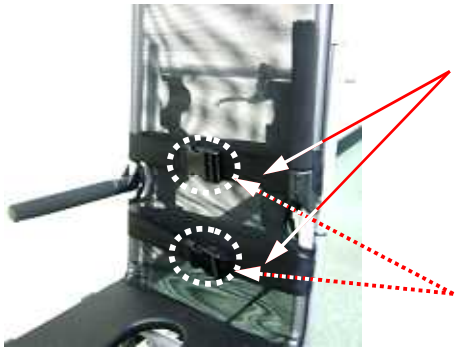
アームサポートは搭乗者が座っている時に搭乗者のみ使用できます。
過度の荷重を掛けたり、乗り降りの際に使用すると転倒や破損の恐れがあります。

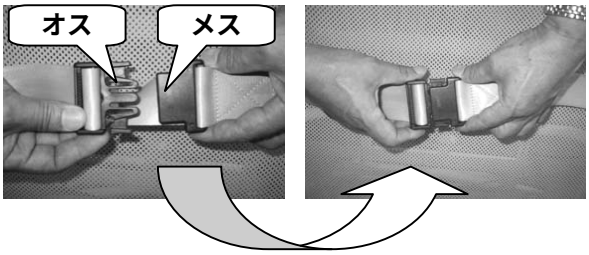
重　要

右の写真丸印の部分は、バックサポートフレームにあたり、ストッパになっています。
操作する際には、指や手を挟まないよう十分に注意してご使用して下さい。

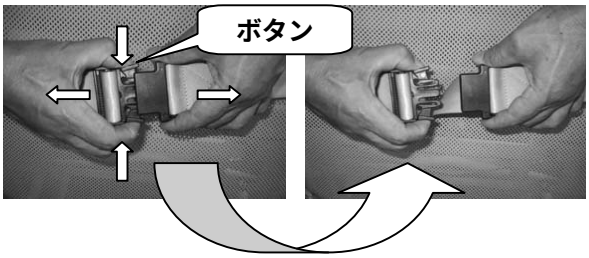
（5） 安全ベルトの着脱

移動時やその他の場面で搭乗者の身体を保持するために安全ベルトを装着します。
安全ベルトは2本付属しており、メッシュシートの背面部には3段のベルト通しが付属しています。
マルチキャリーご使用時には、身体状況に合わせ、適切な位置で両方の安全ベルトをしっかりと装着してください。

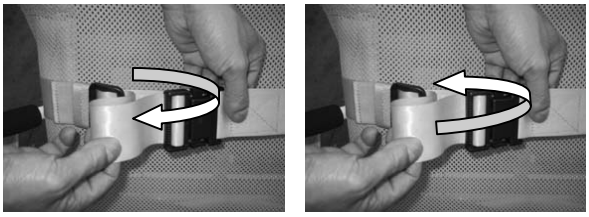




① バックルの装着
バックルのメス側に付いている溝に
合わせてオス側をはめ、両側から「カチッ」
と音がするまで押し込みます。
左右に引張り外れなければ装着完了です。



② バックルの外し方
オス側の両側に付いているボタンを
同時に押しながら左右に引張ります。

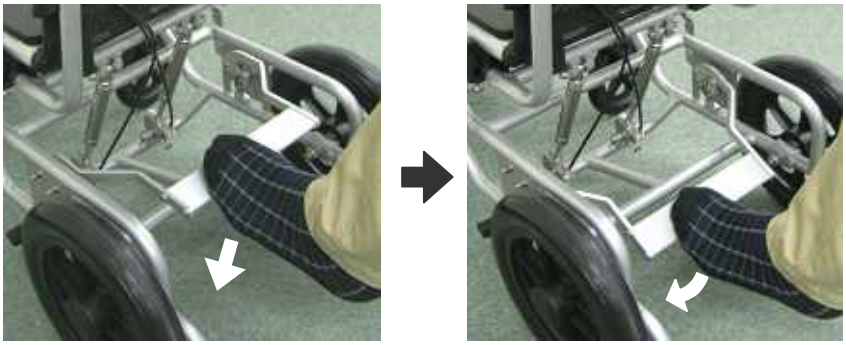


短くしたい時　　長くしたい時

③ ベルト長さの調整
短く調整したい時には裏側のベルトを
手前側に引張り固定します。
長く調整したい時には、手前側のベルト
を裏側に引張り固定します。

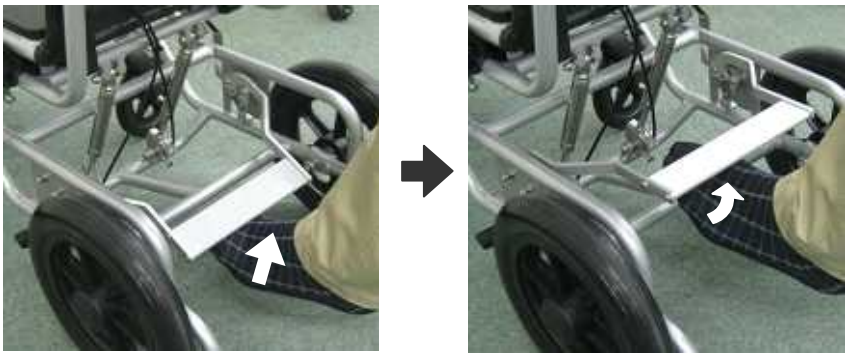
注　意　安全ベルトを装着する時には　ねじれないように装着して下さい。

（6） フットブレーキの操作



【ブレーキを掛ける】

キャリー後部のブレーキペダルを
足で踏みます。



【ブレーキの解除】

ブレーキペダルを足の甲で持ち上
げます。

注　意　ブレーキ操作の際、過度な力で踏んだり、持ち上げたりしないよう注意下さい。

4.　入浴介護リフトを利用した入浴手順

寝室や居室から搭乗者をマルチキャリーに移乗させ、直接浴室に移動し、入浴介護リフトで吊り上げることにより、座ったまま脱衣所・洗い場・浴槽への移動ができます。

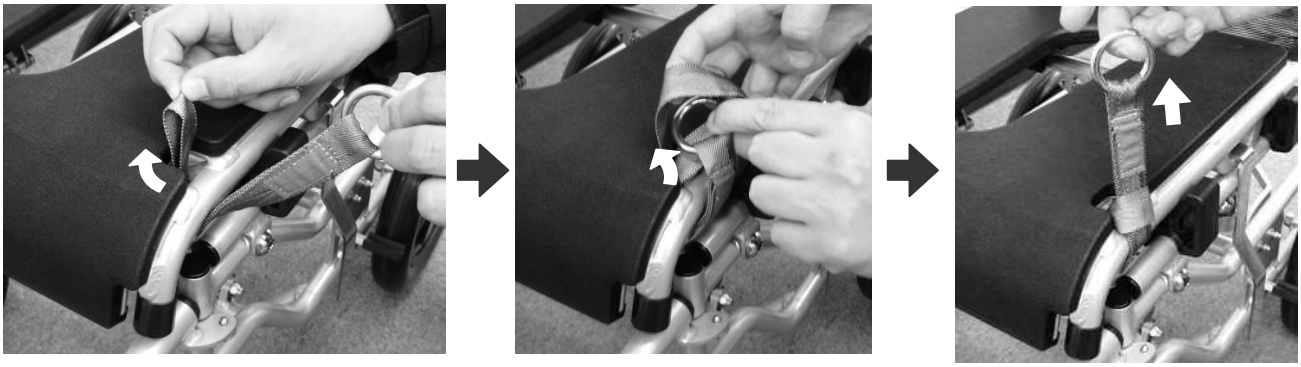
（1）　はじめに

移動時と入浴介護リフトでの吊り上げ時にはそれぞれキャリー姿勢に制限があります。
制限の範囲内にてご使用下さい。

重　要　移動の途中にスロープを通る場合には、バックサポートの角度を最も起こした状態に調整して使用して下さい。バックサポートを寝かせた状態で、スロープを走行するとバランスが崩れ、後方に転倒する恐れがあります。

（2）　吊りベルトの装着

【脚側吊りベルトフックの取付】

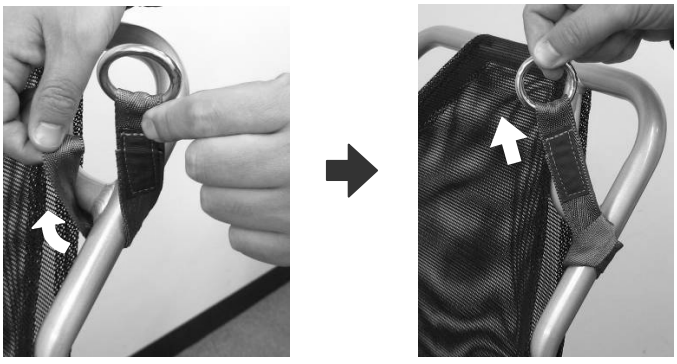


脚側の吊りベルトフックを座面下側より通します

通した先を輪状にし、その中にもう一方のリングを通します

リングを指で上に引き上げます

【頭側吊りベルトフックの取付】



脚側同様、下側よりベルトフックを通し、指でリングを引き上げます

注　意　脚側ベルトフックは紺色のタグ、頭側は赤色のタグが着いています。脚側と頭側とで取付を間違えないよう注意してください。

【吊りベルトの取付】

頭側吊りベルトをベルトフックのリングを通し、長さが均等になるように引きます。

脚側吊りベルトも同様に取り付け、左右両側同様に行います。

【ハンガーへの接続】

全ての吊りベルトは、1本ずつハンガーのフックに取り付けます。

※取り外す際は、取付けの手順と逆に行います。

※ リフトでの吊り上げを行う際には、吊りベルトの長さを、身体状況に合った適切な長さに調整して吊上げを行って下さい。

重　要　脚側、頭側吊りベルト共に、左右の吊りベルトは、同じ長さに調整して下さい。
左右の長さが異なると、横方向のバランスが崩れ、落下する恐れがあります。

注　意　リフトでの吊り上げを行う前に、ベルトフック、吊りベルトの取り付け確認を行って下さい。
脚側、及び 頭側のベルトフックに着いている識別マークと、吊りベルトの色を確認します。

（ 脚側 ： 紺色　　頭側 ： 赤色 ）

（3）　チェア部の分離

入浴介護リフトに吊りベルトを接続し、吊上げを行う直前の作業です。

① フットブレーキを確実に掛けます。

② 吊りベルトの接続を確認します
吊りベルトの各接続部が確実に接続されていることを確認して下さい。

③ 安全ベルトの接続を確認します。
適切な長さに調整され、確実に接続されていること確認してください。

④ キャリー左右のロックレバーを解除します。

（4）　入浴介護リフトの操作

入浴介護リフトの取扱説明書を参照しながら、操作を行って下さい。
また、リフトを操作しながら以下のことを確認します。

- 吊り姿勢は変化していないか
- チェア部が台車から離れるか
- 浴槽の縁に当たらずに浴槽上まで移動できるか
- 浴槽の底にチェア部が着地するか
- 洗い場にチェア部が着地するか

重　要　入浴の際、チェアの吊りベルトは取外さないで下さい。
バランスが崩れ、後方に転倒する恐れがあります。

（5）　チェア部の合体

リフト入浴の終わりに、チェアを台車に戻す作業です。

① 移動します。
チェアを入浴介護用リフトで吊り上げ、台車の上まで移動します。

② 合体します。
キャッチ（合体ガイド）をチェアの後方フレームに合わせながら、リフトを操作し、チェアを降ろしていきます。

チェア部のバックサポートフレームが、台車の
後方フレームに沿うようにリフトを操作し
チェア部を下ろしていきます。

チェアフレームが、合体ガイド後に着地した後
さらに下降を続けると、合体ガイド前にチェア
フレームが着地します。

チェア部が、台車に完全に着地した事を確認し
左右のロックレバーで確実に固定します

重　要

ロックレバーは、必ず左右両側を固定してください。片側のみの固定、及び
確実に固定されない状態で使用された場合、バランスを崩し転倒する恐れがあります。

（６）　移動

①　水分を拭き取ります。

搭乗者の身体をタオルで拭くのと合わせてキャリーの水滴も拭き取ります。

②　ブレーキを解除します。

フットブレーキのペダルを上げてブレーキを解除します。

③　移動します。

ベッドや居室へ移動します。

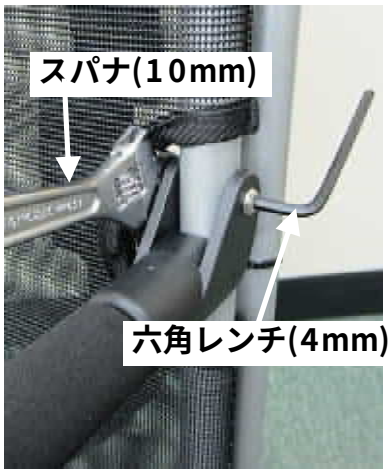
重　要　バックサポートを寝かせた状態で、スロープを通るとバランスが崩れて後方に転倒する恐れがあります。

④　安全ベルトを外します。

5. 各種部品の交換方法

各種部品の交換の際は、以下の手順で行って下さい。

（1）アームサポートの取付け、取外し



アームサポートはバックサポートフレームに、ボルトとナットで固定されています。

まず、ナットを10mmのスパナ、或いはモンキーレンチで回転しないよう押さえます。

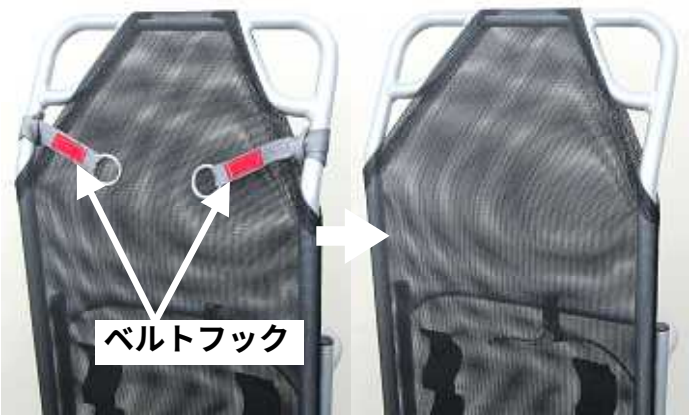
次にボルトに、4mmの六角レンチを差し反時計回りに回し、緩めていきます。
(4mm六角レンチは付属しています)

ボルトを緩め続けると、フレームから取り外す事ができます。このとき、内側のナットも同時に外れますので、無くさないように注意して下さい。

※ 取付けは上記手順を逆に行って下さい。

（2）メッシュシートの取付け、取外し

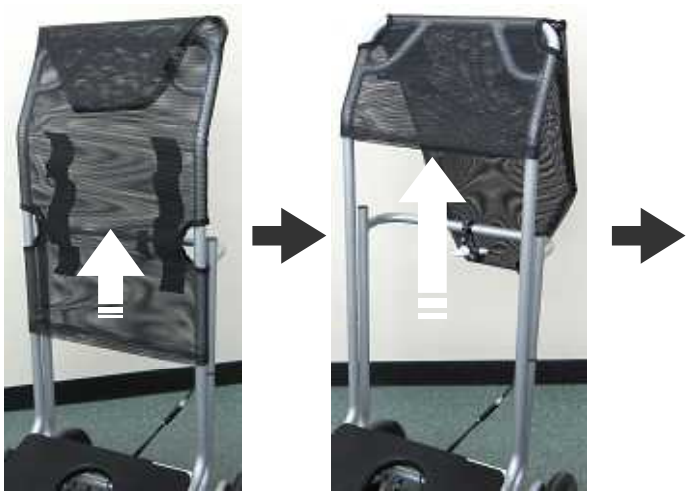
メッシュシートの取り外しには、アームサポートを取り外す必要があります。上記手順でアームサポートを取り外した後、作業を行って下さい。



頭側のベルトフックを取り外します。

後は、メッシュシートを上方向にずらし、引き抜くだけです。

メッシュシートを引く際は、強く引きすぎないように注意して下さい。シートの破損の原因となります。

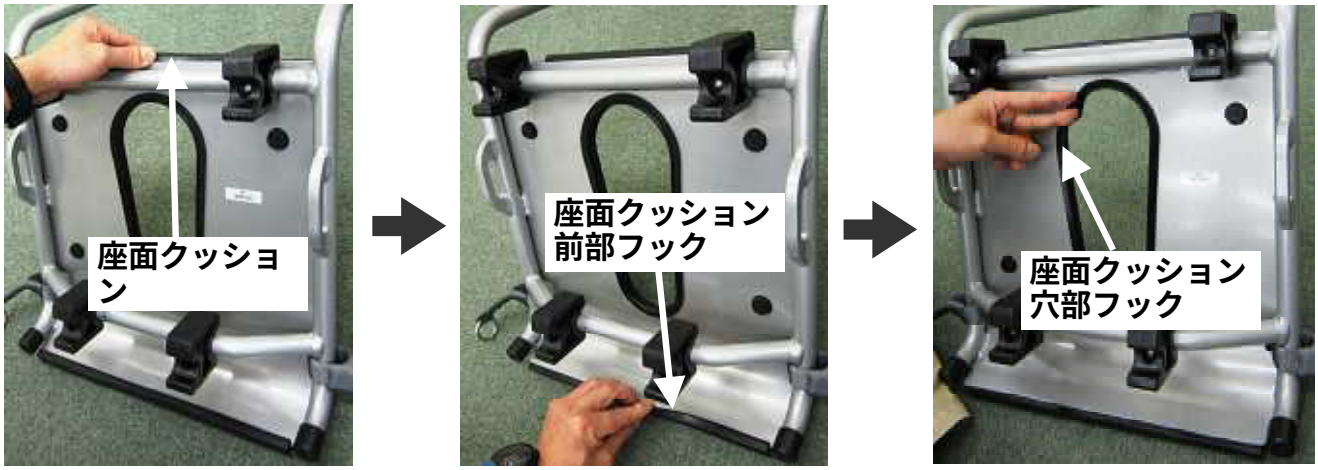


※ 取付けの際は上記手順を逆に行います。
取付けの際も同様にシートを強く引きすぎないように注意して下さい。

（3）座面クッションの取付け、取外し

台車からチェアを分離し、床に左の写真のように裏面が見えるように置きます。

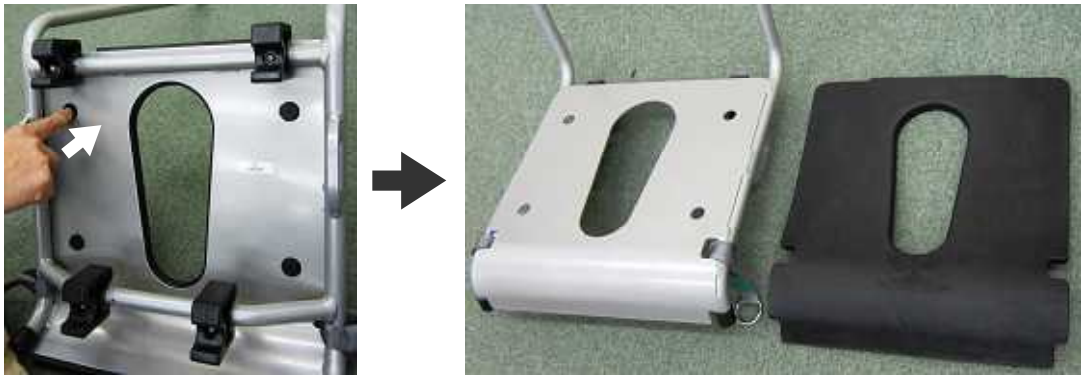
※ このとき、チェアフレームに傷が付かないよう、床にはタオルなどを敷き、その上に置くように注意して下さい。



① 座面クッションの後部フックを外します

② 座面クッションの前部フックを外します

③ 座面クッションの穴部フックを外します



④ 座面クッションの固定凸部を上図のように指で押します

以上 全ての固定部を外すことで座面クッションの取り外しができます

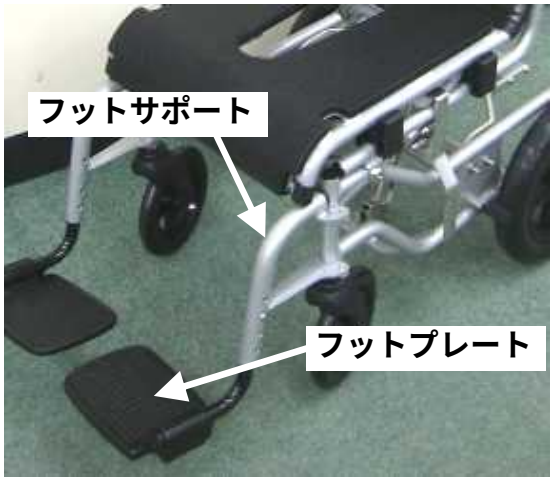
※ 取付けの際は、上記手順を逆に行って下さい

注　意

取付け、取り外しの際には、座面クッションを無理に引張ら無いようにして下さい。
また、取り外しの際には、必ず各フック部を取り外すようにして下さい。
無理に引張ったり、各フック部を外さず、座面クッションを取り外した場合
クッションが破損する恐れがあります。

（4）フットサポート、フットプレートの取付け、取外し

【フットサポートの取付け、取外し】



フットサポートの取付け、取外しは「P.9 フットサポートの操作」を参照し行って下さい。

【フットプレートの取付け、取外し、位置調整】

① 側面のボルトに、4mmの六角レンチを差し反時計回りに回し、緩めていきます。
(4mm六角レンチは付属しています)

② 緩め続けると側面のボルトは、引き抜く事ができます。
※取外した側面ボルトは無くさないように注意して下さい。

③ 側面ボルトを取り外すと、フットプレートが取付けられた、パイプ(黒色)を下方向に引き抜く事ができます。

工場出荷時、フットプレートの位置は、上から2段目に設定されています。搭乗者の身体状況に合わせ、適切な位置に調整をする事ができます。

（※ 一番下の穴は使用しません）

⑤ フットプレートの裏面に固定用のネジが取付けられています。このネジをプラスドライバーで半時計回りに緩め続け取外します。

※ 取外したネジは無くさないように注意して下さい。

注　意

プラスドライバーでネジを緩める際は、十時の溝にプラスドライバーの先端をしっかりと差し込み、強く押し付けて緩めるよう注意してください。
しっかりと差し込まれず緩めた場合、十字溝が変形、破損する恐れがあります。

⑤ フットプレートを押さえ、パイプ(黒)を引き抜きます。

※ 取付けの際は上記手順を逆に行い取付けてください。

6.　日常のお手入れ、点検について

「マルチキャリー」は、金属、プラスチック、ゴム、ナイロン生地を材料としています。錆びや腐食には充分配慮して作られていますが、ご使用にあたっては下記の項目に注意しお使い下さい。

（1）　通常のお手入れ

フレームは、アルミニウムの上に塗装がされていますが、汚れてきた場合はやわらかな布に中性洗剤を浸して汚れを取り、乾いた布で拭き取って下さい。

注　意

強い酸やアルカリ、塩素系洗剤は使わないで下さい。誤って これらの洗剤をフレームやメッシュシートにかけてしまった場合、直ちにシャワー等で洗い流して下さい。
また、金属などの硬い物でこすったりたたいたりしないで下さい。

（2）　メッシュシートのお手入れ

洗濯時は手洗いをおすすめしますが、洗濯機で洗う場合には、ネットを使用し、弱流で洗濯して下さい。　また、乾燥は日陰干しして下さい。

注　意

アイロン及び乾燥機は使用しないでください。また、ドライクリーニングは絶対に行わないで下さい。

（3）　日常の点検について

以下の事を確認してから使用して下さい。

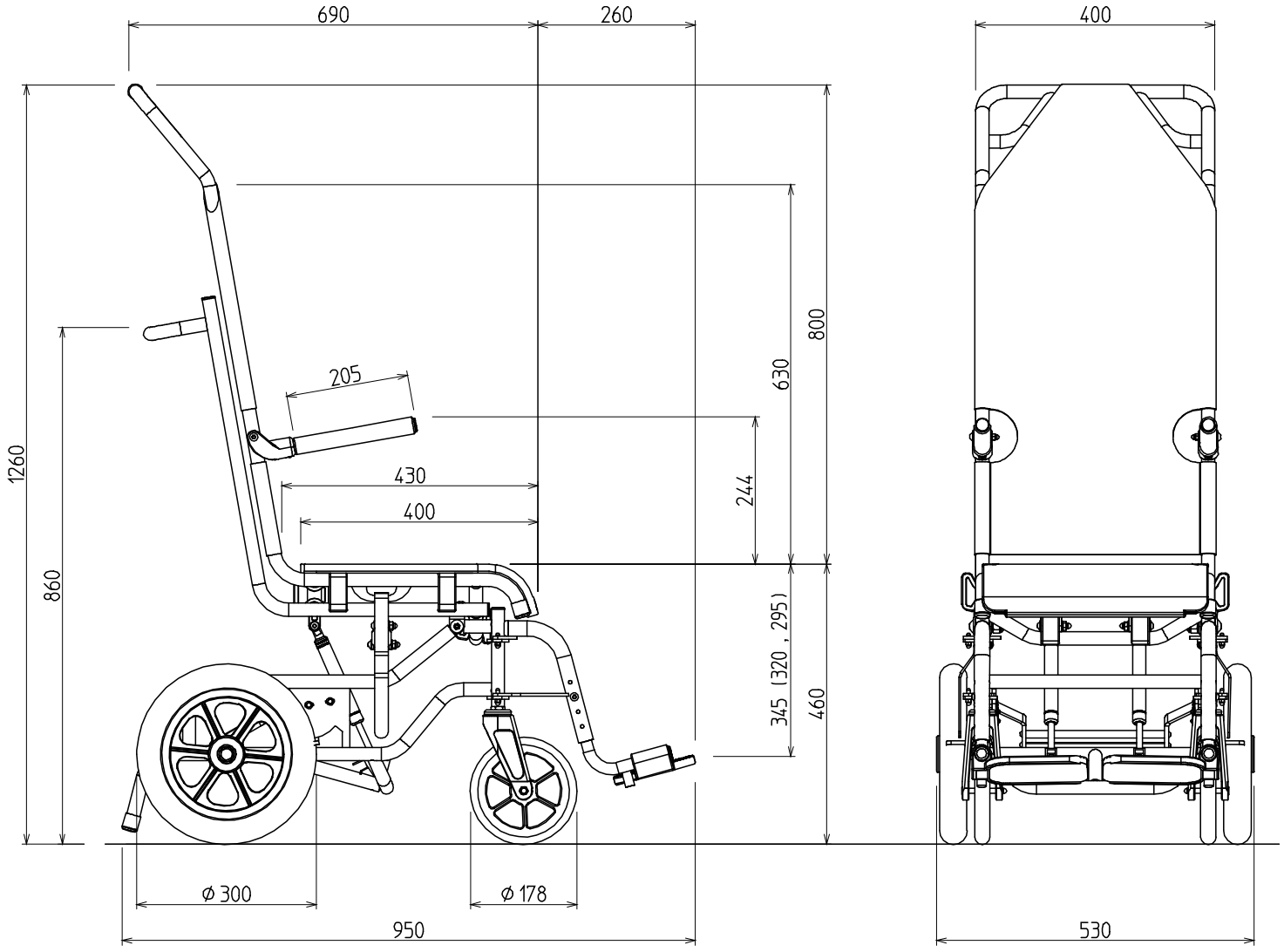
- ブレーキは、効きますか？
- チルティングは正常に作動しますか？
- アームサポート・フットサポートは正常に作動しますか？
- ロックレバーは正常に作動しますか？
- 吊りベルトに切れやほつれはありませんか？
- メッシュシートに切れやほつれはありませんか？
- 安全ベルトに切れやほつれ、バックルの割れはありませんか？
- ネジやナットに緩みはありませんか？

※　メッシュシート、吊りベルト は消耗品です。切れ、ほつれ などが発生した場合、すみやかに交換して下さい。
※　座面クッション、肘掛のクッションは消耗品です。　切れ、欠け、亀裂などが発生した場合すみやかに交換して下さい。

その他　不具合が発生した場合には、使用を止め、弊社または、販売代理店にご連絡下さい。

7. 仕様

各部寸法	下記寸法図を参照
チルティング	0度～15度　無段階調整式
背もたれ角度	床面に対し 100度～115度
重　　量	16ｋｇ（チェア部：5ｋｇ　台車：11ｋｇ）
最大荷重	100ｋｇ
材　　質	アルミニウム・ステンレス・樹脂
車　　輪	前輪：Φ178mm・後輪：φ300mm



Memo

お問い合わせは

【 販売代理店 】

http://mikuni-care.jp

e-mail：fukushi@mikuni.co.jp

詳しくは…　ミクニ　リフト　検索

BCH-T/001

株式会社ミクニ　コンシューマ事業部　シニアプロダクツチーム

［東京］　〒101-0021　東京都千代田区外神田6-13-11 ミクニビル　TEL.03-3833-9548　FAX.03-3833-2819

［小田原］　〒250-0055　神奈川県小田原市久野2480　TEL.0465-35-8431　FAX.0465-35-9272